



元寇防塁の発掘調査最新成果・出土品を展示—九州大学総合研究博物館

元寇防塁は、博多湾沿岸各地に遺跡が残っているが、箱崎地区の防塁は、市街地の開発や九州大学キャンパスの建設に伴い、その東端の地蔵松原以外では消滅したものと考えられてきた。ところが、平成28年に始まった、移転に伴う箱崎キャンパス内の発掘調査で、石積遺構が徐々に発見された。この防塁の位置は、大正初期に、当時の医学部教授であり考古学者でもあった中山平次郎がキャンパス内の綿密な踏査で推定していた場所に当たることが明らかとなり、中山の仮説が検証されたことになる。中山は大正から昭和初期の考古学研究をリードしたが、40歳を超えて考古学を開始した中山が最初に挙げた研究成果が元寇防塁研究であった。総合研究博物館では、「防塁再発見—慧眼の士・中山平次郎先生の足跡」展で、大正初期の中山の研究成果、近年の発掘調査やその後の分析で明らかになった新事実を代表的出土品とともに紹介する。この展示を通して、九州大学の学内埋蔵文化財に対する取り組みの一端を知って頂くことを目指している。

展示で取り上げる遺物；新出土防塁石材・礎石2点・防塁内側の大溝出土品、
中山平次郎が採取した各地の防塁石材

展示で取り上げる新成果；中山平次郎の防塁位置推定と九大キャンパスの関係、
元寇時点の海岸線位置が判明、防塁石材の採取地が判明

展覧会情報：

九州大学総合研究博物館・九州大学
埋蔵文化財調査室主催

期間；5月12日～7月27日

10時～17時

土・日・休日は休み、ただし

5月12(土)・13(日)・19
(土)・20(日)は開館。

場所；総合研究博物館・常設展示室
(箱崎地区・旧工学部本館・3階)

多くのご来場をお待ちします。



(参考図)

中央図書館南地点で発見された防塁は、まさしく1912(大正元)年に中山平次郎が、大学内で最も残りが良い場所として注目した地点であった。



埋蔵文化財調査室、三阪助教・谷学術研究員

【お問い合わせ】 総合研究博物館 教授 岩永省三

電話：092-642-4294 FAX：092-642-4299

Mail：iwanaga@museum.kyushu-u.ac.jp